

## 相手を自分で選ぶことで目的が明確になる外国語の授業

新潟市立五十嵐小学校

小杉 唯子（平成22年度）

### 【主張】

子どもが「誰に」伝えたいのかを自分たち自身が決めることで、学ぶ・活動する目的が明確になると考える。誰かと仲良くなるには、必ず相手が必要になる。子どもが、「伝えたい」「話したい」「やってみたい」と思うには、必ず「あの人に」という相手がいる。「誰に」を子ども自身が決めることで、「伝えたい」想いが醸成し、学ぶ・活動する目的を明確する子どもをめざす。

子どもが「誰に」を決める際、教師が相手を示すのではなく、伝える内容を想像しながら、子ども自身が「あの人に」という相手と活動のゴールを決めさせることが重要だと考える。伝えたい相手を自分たちが決めることで、相手によって伝えたい内容が変わるため、その子に沿った目的をもって学べると考える。